

あなたもチャレンジ！家庭菜園

園芸研究家 ● 成松次郎

コマツナ べた掛け資材で害虫を防ぐ

コマツナは耐寒性があり、冬の寒さで特においしくなります。ピタミン類、カルシウム、鉄分を多く含む緑黄色野菜です。

【品種】 近年は葉が丸く、緑が濃い品種が好まれ、秋冬まきでは「はまつづき」(サカタのタネ)、「楽天」(タキイ種苗)、春夏まきでは「いなむら」(サカタのタネ)、「菜々音」(タキイ種苗)などが良いでしょう。

【栽培期間】 一般地ではほぼ周年栽培でき、草丈20～25cmを目標に、春夏まき(3～5月)は30～50日、夏まき(6～8月)は20～25日、秋まき(9～11月)は30～60日で収穫します。冬まき(12～2月)は、トンネルやべた掛け資材で保温し、60～90日で収穫できます。生育が早く収穫遅れにならないやすいため、1週間置きに少しづつ

つまいて、長く収穫を楽しむのが良いでしょう。

【畑の準備】 種まき2週間前に1平方mあたり苦土石灰100gをまいて畑をよく耕し、1週間前に化成肥料(NPK各成分で10%)100gと堆肥2～3kgを施し、土とよく混ぜておきます。幅90cmの栽培床を作り、畝に直角に条間15～20cmの種まき溝を切ります。このとき、まき溝は支柱や木板を土に押し付け、溝を付けると深さが一定になります(図1)。

【種まき】 種が重ならないように1cmくらいの間隔でまき、土を軽くかぶせておきます。種まき後はべた掛け資材を使い、乾燥や強い雨を防ぐと同時に害虫の予防にも有効です。被覆は収穫の5～7日前に取り除きま

す(図2)。

【間引き】 初めは、本葉が見える頃に子葉の重なっている部分を間引きします。その後、葉が触れ合う程度に間引き、最後に5～6cm程度の間隔にします。間引き後は株がぐらつくのを防ぐため、株元に土寄せします(図3)。

【病害虫の防除】 生育期間が短いので、農薬の使用は生育初期に限りまします。不織布のべた掛けやネット栽培によりアブラムシ、コナガなどの害虫の侵入を防ぎます。

【収穫】 草丈20～25cm程度で根を付けて抜き取り収穫をします。収穫が遅れると葉が堅くなり、食味も落ちてしまいます。

図1 畑の準備

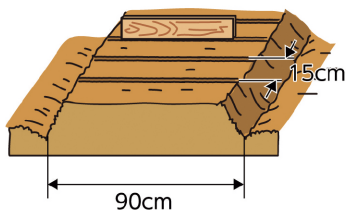


図2 種まき

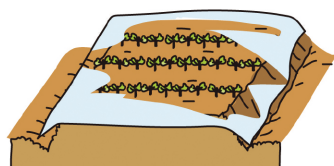
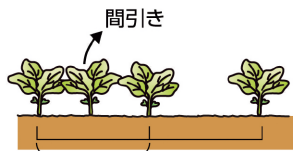


図3 間引き



(1) 子葉が重なる部分を間引く



(2) 草丈7～8cmのときに5～6cm間隔に間引く

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。